

平成26年度 維持管理状況(7月1日～31日)

<工場設置計器の測定結果>

清掃工場名等	焼却能力	炉番号	処分した一般廃棄物	ごみ焼却量	燃焼室ガス温度	集じん器入口ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度(煙突) (O2 12%換算)	冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんの除去
	t/日			t	℃	℃	ppm	
光が丘	300	1号炉	可	2,933.94	846～1,018	159～160	2～27	ボイラ設備の除じんはボイラストロブロー又はボイラ槌打装置により毎日実施する。ろ過式集じん器の除じんは空気式自動洗浄装置により毎日実施する。
		2号炉		3,218.71	823～1,024	152～156	1～38	
目黒	600	1号炉		7,580.78	908～1,015	159～211*①	2～8	
		2号炉		7,281.23	928～1,030	159～204*①	8～14	
有明	400	1号炉		5,347.54	963～1,081	173～180	7～47	
		2号炉		6,076.61	1,024～1,198	173～182	5～58	
千歳	600	1号炉		15,098.43	927～1,075	158～163	2～9	
江戸川	600	1号炉		8,066.14	875～978	170～171	0～3	
		2号炉		5,736.77	872～945	170～171	0～10	
墨田	600	1号炉		9,266.74	1,017～1,100	169～183	0～3	
北	600	1号炉		7,326.38	988～1,208	165～174	0～34	
新江東	1,800	1号炉		17,206.76	898～1,156	168～173	3～30	
		2号炉		7,506.82	881～1,101	168～173	0～31	
		3号炉		8,242.37	921～1,128	168～177	0～15	
港	900	1号炉		2,357.96	965～1,140	167～168	1～24	
		2号炉		9,047.39	963～1,170	168～171	0～17	
		3号炉		8,890.03	984～1,175	167～169	1～36	
豊島	400	1号炉		5,637.19	846～905	159～163	5～70	
		2号炉		5,813.78	862～918	159～161	4～68	
渋谷	200	1号炉		2,178.38	856～1,003	145～156	1～127*②	
中央	600	1号炉	8,408.53	893～1,030	147～151	2～22		
		2号炉	8,295.31	918～1,036	148～152	3～35		
板橋	600	1号炉	2,565.09	894～1,039	159～175	0～6		
		2号炉	8,544.47	891～1,073	159～165	2～7		
多摩川	300	1号炉	1,935.46	874～998	155	3～34		
		2号炉	定期点検補修					
足立	700	1号炉	9,417.57	880～1,050	171～174	0～9		
		2号炉	8,275.82	886～1,044	170～182	1～54		
品川	600	1号炉	978.33	898～1,016	158～165	0～5		
		2号炉	8,425.32	894～1,040	159～165	0～28		
葛飾	500	1号炉	2,215.61	938～1,078	157～167	3～46		
		2号炉	7,090.42	906～1,028	157～164	4～31		
世田谷	300	1号炉	1,724.77	874～1,030	167～179	0～65		
		2号炉	2,791.27	955～1,071	166～186	0～20		
破碎ごみ処理施設	180	1号炉	3,994.24	842～913	154～164	0～75		

測定値が維持管理計画値を超過した(下回った)理由(\*)

平成26年度 維持管理状況(7月1日～31日)＜工場設置計器の測定結果＞より

- ① 目黒清掃工場 1号炉、2号炉 7月3日(木) 11:00  
集じん器入口ガス温度が、1号炉で211℃、2号炉で204℃を記録した。  
原因は、集じん設備空気圧縮機の機器切り替え時に、減温塔ノズル噴霧量を制御するコントロール弁が「閉」になったことによる。  
直ちに、減温塔ノズル噴霧量を制御するコントロール弁を「開」とし回復を図った。  
その結果、維持管理計画値以下に回復した。
  
- ② 渋谷清掃工場 1号炉 7月24日(木) 14:00  
排ガス中の一酸化炭素濃度が、煙突入口連続測定計器で127ppmを記録した。  
原因は、ごみ質の変動により焼却炉内において燃焼が不安定となり、一時的に不完全燃焼となった際に、煙突入口連続測定計器の自動校正が開始され、測定値が保持されたことによる。  
自動校正を一時中断することにより、維持管理計画値以下に回復した。  
なお、ろ過式集じん器出口連続測定計器での同時間帯測定値は1ppmであった。